

ワールドシティタワーズ 地震防災のしおり

ワールドシティタワーズ管理組合・防災会

高層マンションは耐震性に優れているため、大地震が起きても建物自体には大きな被害が発生しないと考えられています。但し、電気や水道、下水などのライフラインが停止する可能性があり、こうした場合には、居住者同士の助け合いが大切になります。

この「しおり」は大地震時の助け合いながらの生活のルールを簡単にまとめたものです。

☆港区の防災計画では、ワールドシティタワーズが立地している芝浦港南地区は地区内残留地区になっており、建物の安全性を確認した上で、マンション内の居室で生活することが原則になります。

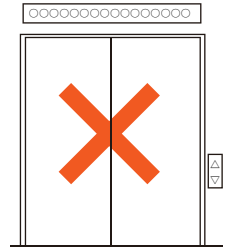
☆大地震が発生すると、都、港区、消防等が正常に機能するまで時間がかかると予想されています。また、電気をはじめとするライフラインが正常に供給されるようになるまで長時間かかると言われています。この間、居住者同士で協力しながら生活することが必要になります。

<お問い合わせはご意見箱に>

point 1 地震にない、ライフラインが被害を受けると・・・

■エレベーター **震度5相当の地震で、非常用エレベーターも使えなくなります。**

- 震度5相当で、非常用を含め全てのエレベーターは最寄階に停止し、扉が開きます。扉が開いたらただちに脱出してください。閉じ込められてしまうため、扉が開いているエレベーターには絶対に乗らないでください。
- 電気が復旧しても、エレベーター管理会社により安全が確認されるまで動きません。(数時間から数日間かかります)



■インターホンによる防災センター管理室との連絡

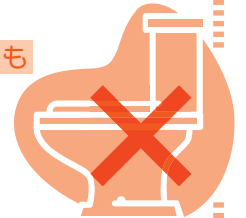
- 緊急時には館内放送が各住戸と共用部に流れます。
- 各戸からは発信しないでください。 **インターホンの非常ボタンは押さないでください。**

■照明

- 停電した場合は、消火用設備のために非常用自家発電装置が作動します。稼働時間は約5時間です。
- 館内の誘導灯や共用部の照明は一定の時間点灯していますが、バッテリーが切れると、その後電気が復旧するまでは照明がつかなくなります。(暗い中での生活が前提になります。懐中電灯は必需品です。)

■水道・下水道

- 水道は、停電するとポンプが動かず断水し、下水も本管に放流できません。
- 停電時にトイレは絶対に使用しないでください。浴槽に溜めた水でトイレを流すこともやめてください。各自が備蓄している簡易トイレを使ってください。**
- ゴミは、クリーンステーションに運ばず、回収が始まるまで、各戸で保管してください。



■出入口

- マンションの出入口は、停電すると解錠され、通電するまで、手動開閉になります。
- タワーパーキングと機械式駐車場は、停電すると動きません。また、再稼働には点検が必要です。

point 2 大きな被害を受けないためには日頃の備えが大事

- 室内の防災対策
 - 家具等の転倒・移動防止 (金具類による固定など)
 - テレビ・パソコン等の落下・移動防止
 - ガラスの飛散・落下防止、履き物の用意
 - 避難路の確保、ベランダの整理
- ライフラインの途絶
 - 停電への備え (懐中電灯・携帯ラジオの用意)
 - 飲料水・生活用水・簡易トイレセットの用意
- エレベーターの停止
 - 食糧品・医薬品の備蓄

■普段から以下のような食糧・物資などを自宅で備蓄してください。



食料品等 (最低3日分)	衛生・医薬品等
<input type="checkbox"/> 主食 (米、レトルト、フリーズドライ品等)	<input type="checkbox"/> 簡易トイレ (7日分)
<input type="checkbox"/> 副食 (缶詰、瓶詰め、乾物等)	<input type="checkbox"/> 常備薬、救急薬品
<input type="checkbox"/> 乳幼児・子ども用 (粉ミルク、おやつ) / 病人用治療食	<input type="checkbox"/> 包帯、三角巾、さらし
<input type="checkbox"/> 飲料水 (1日分: 1人3リットル)	<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ

もし大地震が起これば、緊急放送が流れます。
あわてて避難階段で逃げると危険な場合もあります。
できるだけ冷静に行動しましょう。

point 3 大地震が発生。まずは、安全の確保／トイレは使用できなくなります

1. 自分と家族の身の安全を確保する

- 家具類の転倒や物の落下から身を守るため、机の下などで揺れが収まるのを待ちます。

2. 火元を確認する

- 揺れがおさまったら、火元を確認します。
- 火災が発生した場合は、落ち着いて消火器等で初期消火を行ってください。



3. 避難路を確保する

- 火元の確認後、避難ができるように玄関の戸を開け、避難路を確保します。

4. 設備の安全を確認する

- 電気、水道、ガスは、安全が確認されるまで使用しないでください。避難する場合は、電気のブレーカーを落とし、ガス、水道の元栓を閉めてください。
- 停電した場合、トイレは被害状況が確認されるまで使用せず、アナウンスがあるまで、備蓄している簡易トイレ等を使用してください。台所排水等は、一切流さないでください。

point 4 在宅者と帰宅者の安否確認と対策本部の立ち上げ

1. 震度6弱以上の地震が発生し停電した場合、速やかに対策本部を立ち上げます。

2. 自分や家族の身の安全を確保した後、居住階のエレベーターホールに集まります。クリーンステーションから安否確認用紙を取り出し、安否確認を行ってください。
3. 手分けして、安否確認マグネットカードの貼り出されていない住宅のドアを叩き、無事が、助けが必要か確かめます。
4. 在宅の防災会役員及び協力していただける方は、対策本部の活動を行うため、1階防災センター管理室横に集合します。
5. マンション全体の被害状況を把握するため、対策本部に情報を集めます。
6. エレベーターも電話も使用できない状態です。トランシーバーを使用してブロックごとに対策本部と通信します。
7. 助けが必要な方を皆さんで助けます。(避難の誘導、応急手当)
8. A3階のワールドシティホールに救護所・待避所を開設し、応急手当や自宅で生活できない方を受け入れます。
9. 対策本部を中心に、地域情報の収集や重症者の搬送などを行います。
10. 必要に応じて周辺の企業や商業施設等と連携して活動します。
11. 他の場所に移動される方や避難される方は、フロアリーダーまたは対策本部に連絡してください。
12. 地震発生後に帰宅された方は、対策本部に連絡してください。
13. 防犯のため、出入り口はA、B、C棟の中庭側エントランスのみに制限します。

point 5 平常時に戻るには・・・

ライフラインの復旧は、地震発生後、電力が最短で6日、上下水道が約1ヶ月、ガスは2ヶ月近くかかると想定されます。エレベーターが復旧すると生活の利便性は改善されますが、水道・ガスの復旧までは、引き続き協力して、生活を送ります。

ライフラインの回復状況に応じて平常時の生活に移行していくことを想定しています。